

開校30周年記念誌

# 三十年のあゆみ



平成3年10月

函館市立五稜中学校

五稜中の三十年



# もくじ

校訓・校旗・校章・学校教育目章・校歌

あいさつ・祝辞

- 更なる前進
  - 「公平至誠」―贈る言葉
  - 開校三十周年を祝して
  - 創立三十周年を迎えて
  - 創立三十周年を迎えて
  - 新しい時代に向けて
- |  |   |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>● 校長 田嶋 靖彦</li> <li>● 発起人代表 杉山 博康</li> <li>● 教育長 安島 進</li> <li>● PTA会長 廣部 七郎</li> <li>● 同窓会長 山崎 正吉</li> <li>● 生徒会長 多田 徳広</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>5代 金澤 浩</li> <li>4代 寺岡 守男</li> <li>3代 高橋 長一</li> <li>川島 啓右</li> <li>大坂 邦子</li> <li>橋詰 尤子</li> <li>大野 哲朗</li> <li>石井 寿八</li> <li>佐藤 洋</li> <li>青山田 鶴子</li> <li>中田 宏</li> <li>井川 大輔</li> <li>菊地 富男</li> <li>藤井 信子</li> </ul> |
|--|---|

思い出

- 五稜中に自信と誇りを
  - 限らない未来を祝福して
  - 私にとっての五稜中学校
  - 暖かさ信頼感の中で
  - 当時はのんで
  - 恋しきはボンクラ、今も昔も
  - 五稜中学校の思い出
  - 懐かしい五稜中学校
  - 思い出の水泳部
  - あれから早や十年
  - 荒波にもまれて母校を思う
  - 佳き友に恵まれて十年、五稜の会
  - PTA活動による思い出に寄せて
- 三十年のあゆみ

沿革

- 思い出のアルバム
  - 学校行事・部活動の記録
  - 歴代校長・教頭・旧職員名簿
  - 歴代PTA役員名簿
  - あとがき
- |    |    |
|----|----|
| 15 | 7  |
| 23 | 8  |
| 25 | 9  |
| 27 | 10 |
| 30 | 11 |

# 校訓

誠実 協調 真理 探求

為五稜中学校  
北海鷗亭書

## 校旗



## 校章

昭和37年3月6日制定



1. 外形は五稜郭の城趾の五角形を形どり、地域性を重視し表現す
2. 花は五稜郭城趾の桜の花で、文化を意味し、自主勉勵によって一層文化の発展向上を図る意味を表現す
3. 五稜を形どる線の間にある点は蕾をあらわし、これによって若い萌え出る力が手をつなぎあい、友愛協調の精神を表現す

## 学校教育目標

1. 誠実な生徒
2. 協調性に富む生徒
3. 真理を探求する生徒
4. 健康で粘り強い生徒
5. 社会的視野の広い生徒



# 更なる前進

校長 田 嶋 靖 彦



五稜中学校は、今年、開校三十周年を迎えました。この佳き節目の年にあたり、その時代その時に、何らかの形で携わられた全ての皆様方とともに、心から喜びあいたいと存じます。

「五稜が丘」でも述べましたが、函館市民は昭和三十年代にはいと、宅地を求めて東へ東へと移動をはじめました。本校のある田家町に、一般市民の住宅はもとより、道営住宅や市営住宅が次々に建てられるにおよんで、この地域の人口が急激に増加したのです。函館市の当時の理事者や教育委員会では、その現実にあわせて、義務教育の学校をいくつか建てたのですが、本校もその中の一つです。

本校は、昭和三十六年の四月に大川中学校田家分教場として発足しました。その時には大川中学校と中央（現凌雲）中学校の教室を借りていましたが、現在の正面と北側の校舎が完成したのが、昭和三十六年の十二月でした。そして、函館市立五稜中学校と正式に名乗ったのが昭和三十七年四月一日で、今年ちょうど三十年目になります。

開校当時の生徒会誌や学校行事等の写真が、今でも整理保存されておりますが、その頃の男子生徒は、制服制帽をきちんと身につけ、実にさわやかな印象を感じることができまし、また、女生徒のひとりひとりに清潔感を感じることができます。

本校は、特別教室の増築、プールの新設、L.L教室の開設、体育館の改築、校舎の改築、グラウンドの暗渠排水と整地等々、学校の発展と変化に即応して、着実に進展してまいりましたが、学校環境の整備に努められました市理事者、教育委員会、そして地域の方々のご協力にたいしまして、心から敬意と感謝の意を表するものです。

私は、昭和四十二年四月から昭和四十七年の三月までの五年間、本校に勤務しましたが、奇しくも十一代目の校長として再び本校に着任し、開校三十周年を迎えることになりました。困果の感慨ひとしおのものがありますが、それとともに、新たな責任と緊張に身のひきしまる思いです。

本校の教育に直接携わられた先輩諸氏は、校訓である「誠実・協調・真理探究」のもとに、函館市および全道の教育の先駆者として率先垂範、学校教育の充実に励んできたところです。三十年間にわたる本校教育の沿革は、道徳教育の推進、放送教育の推進等々、まさに時代の要請にかなった輝かしい成果の歴史でもあります。

本校を卒業された同窓生は六千四百六十三名におよび、全国の各界で活躍されておりますことを嬉しく思うと同時に、私ども教職員は、開校三十周年を契機に生徒ともども更なる前進をとげ、地域や父母の皆様方から信頼される学校づくりに励むことを、お誓い申しあげます。

あらためて、各位のご協力に感謝申しあげご挨拶いたします。



# 「公平至誠」一贈る言葉

会館市立五稜中学校30周年を祝う会発起人会

会長 杉山博康

昭和三十六年、大川中学校分教場として開校した五稜中学校が、これまでに六、四六三名の卒業生を送り出し、ここに三十周年を迎えられましたことを心からお喜び申し上げますと同時に、種々の困難をのりこえて優れた校風を築き上げて来られた教職員・父母・地域住民のみなさまのご努力に対し、深甚なる敬意と感謝を表するものであります。

創立三十周年を祝って、ささやかではあります但し記念事業を実施するべく、発起人会を開催して記念誌の発行をはじめとする諸事業を企画・推進してまいりました。短期日の中で事業の推進に積極的にご協力下さいました関係者に、発起人会を代表して心からの感謝と御礼を申し上げます。

五稜中学校開校当時、私は市内中学校の体育教師であり、新設五稜中学校の中体連における活躍がめざましく驚異を覚えたものであります。然し、自分の子どもが五稜中に入學し、PTA活動にも参加するに及び、「勉強にも強いが、文化・スポーツにも強い五稜中」の実情を知り、納得が出来たものでした。それは、教師と父母の子育てにかける絆の固さが底流にあり、あらゆる教育活動を支え切っていることであります。

五稜中学校の卒業生の活躍が目につくようになってきています。私は三十周年記念テレフォンカードの作成にあたり、「公平至誠」の言葉を台紙に贈りました。初期の卒業生も「四十而不惑」不惑の四十代となり、二十一世紀の担い手の中核として活躍せねばならない責任を負っていることを想うとき、処世のモットーにしていただければ幸いと思っただけであります。

校訓に掲げる「誠実」、人はただ誠に従うものであり、人をうまくまらめこんで、こそそと物事をたくらみ、そのことがかりにうまくいったとしても、見識のある人には見抜かれていられるものであります。人に対するには、片寄ることなく、純粹なまごころをもってしなければなりません。「公平至誠」なくして人の心をとらえることはできないものであります。人をろうらくする場合、必ずうまく調子を合わせて相手の気に入るように言ったり、策略とか虚偽の方法を用いるものであります。うそ、うそいつわりは、ただ一時を欺くだけで決して永続するものではありません。永久に人の心を取り得るものは「公平至誠」のほかにはないと考えるのであります。

五稜ヶ丘にたくましく産声をあげて三十年、今日も明日に向ってよりよい教育活動を追求する五稜中学校の希望に満ちた頼もしい姿があります。どうかこの三十周年を契機にして、五稜中学校の特色ある教育活動がより一層充実し、二十一世紀に生きる人間性豊かな子ども育成に、今後とも大きな実りが継続し続けることを心から期待するものであります。

限りない五稜中学校の発展を心から祈念申し上げるとともに、関係各位のご健勝とご活躍をも祈念致します。

# 開校30周年を祝して



函館市教育委員会教育長 安 島 進

函館市立五稜中学校が開校三十周年を迎えられましたことを心からお喜び申しあげます。本校は、この地域の宅地化が進行し、生徒数が増加の一途をたどっていたことなどを背景に、昭和三十六年四月、函館市立大川中学校田家分教場として、大川中学校から三学級、函館市立中央中学校から四学級の、一年生のみ計三百四名で発足し、翌三十七年、校名を函館市立五稜中学校として独立し、開校しました。

当初は、大川中学校と中央中学校に分散して授業が行われるなど、必ずしも恵まれた教育環境のもとでの出発ではありませんでしたが、生徒、父母も一体となって、新しい学校を創造するという熱意に支えられながらその礎が築かれました。爾來三十年、地域と歩みをそろえて発展を続け、今日の隆盛を迎えられたわけであります。この間、歴代の校長先生をはじめとする教職員はもとより、父母、同窓会、そして地域の方々から多大なご尽力をいただいたことに對しまして、心から感謝を申しあげます。

さて、本校は、開校以来一貫して、その時々々の教育課題を的確に把握しながら、それに積極的にこたえる進取の気概に満ちた教育実践を行い、これまで多くの成果をあげてきたところであります。特に、昭和四十年には、新しい伝統を築き、生徒に自主性と誇りを培うために、斬新なスタイルの女子生徒の標準服を制定したのをはじめとして、生徒の体力向上のためにプールを設置、更に、テレビを使用しての授業の充実を図るなど、これらはいずれも当市の中学校において先鞭をつけるものであり、その成果が注目を浴びる中、多くの実りを結んできたところであります。

また、放送教育、理科教育等の全道規模の大会を開催するなど、その真摯で意欲的な実践は、市内はもとより全道的にも高い評価を受けたのであります。

このような実践の積み重ねを踏まえて、本校では、生徒が「主体的に参加・活動する学校行事」の在り方を求めて、郷土函館を舞台とした調査・見学学習をはじめとする体験を重視した特別活動を積極的に推進しているところであります。また、平成元年度からは、カナダ、ハリファックス市フェアビュー中学校との姉妹校交流を通して、国際社会に主体的に生きる資質を養うことを目指した特色ある教育活動を展開するなど、五稜中学校三十年の歩みの中に、新たな厚みを加える意欲的な実践が行われているところであります。

こうした輝かしい実績の数々が、生徒一人一人の豊かな心を育むとともに、「五稜三訓」に示されている本校の良き伝統、良き校風の形成に大きく寄与していることに、改めて敬意を表する次第であります。この意義ある三十周年を契機として、本校が、今後一層の発展を遂げられますよう心から祈念して、お祝いのことばといたします。



# 創立30周年を迎えて

PTA会長 廣部七郎

五稜中学校創立三十周年を迎え、PTAを代表して、お祝いの言葉をのべることができましたことを、大変光榮に存じ、父母の皆様方と共に喜びに堪えない次第でございます。

さて、五稜中学校は、昭和三十六年に函館市大川中学校田家分教場として発足し、その年の十二月に新校舎ができました。その頃、田家町、白鳥町は畑地や湿地であり、現在工事をしている亀田川には、水門がありその周辺には、沢山の魚や亀がいて、それを取りに来る子供達が集まり、今振り返って見ると、とても懐かしい情景が目につかびます。

当初、生徒達は、大川中学校と中央中学校に分かれての学校生活で、その苦しい思いの中の新校舎完成、それも鉄筋コンクリート三階建ての立派な学校ができたということは、大変な喜びであったことと思います。

私が、息子の入学式に一番目についた校章も、昭和三十七年三月六日に制定され、その由来も五稜郭を形どり、桜の花で文化、蕾で若い力を表わしているということ、希望に輝く星のようです。翌三十七年には、函館市立五稜中学校と名称がつけられました。

そして第一期工事から第五期工事へと、校舎は着実に設備も環境も整った、素晴らしい学校になりました。

教育内容というものは、生徒達が勉強しやすい、よい環境があつてこそ高められ、その成果が上がるものだともいえましょう。その点本校は、三十年の歴史の中で教育施設も年ごとに整備されてまいりました。

今年度も、春から大掛かりにグラウンドが整備され、その成果の表われでしょうか、二十年ぶりで野球部が函館市地区戦で優勝する事が出来ましたことは、誠に喜ばしいことであります。

それに加えまして、ここ数年來、当校の高校進学率も伸びてまいりましたことは、生徒自身の自覚はもとより、世間が本校の真価を認め、高く評価しているためだと確信しており、一保護者として誠に頼もしく、力強く感じております。

本校のこの発展は、校長先生をはじめ、諸先生方の教育への熱意ある態度、また父母の皆様のご協力のたまものといえましょう。

時代は移り変わっても、この学校の持つ素晴らしい伝統は、いつの時代にも受け継がれております。特に、校訓であります「誠実・協調・真理探求」はどの時代を生きる者にも大切なもので、卒業生の心の中に生き続けていると信じてやみません。

ここに、本校創立三十周年を記念し、お祝いすると共に、父母の皆様のご協力と生徒の皆様のご努力と勤勉に期待し、五稜中学校がこれからも発展し続けることを願っています。

# 創立30周年を迎えて

同窓会会長 山崎正吉



母校である函館市立五稜中学校が創立三十周年を迎えましたことを、心からお祝い致します。創立の頃を振り返ってみますと、小学生のときスキーで遊んでいた場所に校舎・グラウンドができて、われわれ二回生はそこに入学しました。近隣の三中学校（大川・中央・松川）に分散して学んだ一回生ほどの苦労はありませんでしたが、音楽室・理科実験室・技術家庭科実習室もなく、体育も屋内のときには「通し教室」で行われたものでした。卒業時には、プールを除いて現在のような校舎になっていましたが、それまで毎年少しずつ教室や設備がそろっていくのが楽しみでもありました。施設・設備は不十分でしたが、多くの親しい友達がいり、学んだり遊んだりで中学生生活を充実させていたと思います。先生方にも恵まれ、自分の担当していないクラスにまで問題用紙を配布し勉強するよう指導して下さった先生、休みや祭日に山にさそって下さった先生が懐かし思い出されます。今になって思うことは、先生方それぞれの個性ある指導に接することができ、母校に在学してとても幸運だったということです。これらの先生方のご指導に支えられ、学習面・生活面・スポーツ面でそれぞれにより成果を収めることができ、母校の伝統や校風を作る上で我々なりの役割を果たせたものと考えています。

そのころ、同期生の多くが鉄道官舎・市営住宅、道営アパートに住んでいる会社員・公務員の子で、中学校時代は人生の一つの通過点として捉えていた者がほとんどでした。そのため、学級・教科担任や部活動の顧問が在職中には母校を訪ねることもありませんでしたが、これらの先生方が転勤し、また同窓生も進学・就職で地域を離れるにつれて母校や同窓会への帰属意識が希薄になるといふ傾向があり、それが続いています。卒業後三十年近く経つと、六割以上は函館を離れ、三割ほどは函館の校区外に移り、校区内に残っているのは一割にも満たないのではないかと推定されます。

母校周辺をみると、創立の頃は函館の新興住宅街で、繁華街といえは駅前・十字街という時代でした。それが十年ほどして本町にデパートが移転し、さらに十年ほどで美原に大型スーパーが進出し、商業地の間に位置するようになりました。ここ数年の母校近くの変化ははげしく、市営住宅は建て替えられ、鉄道官舎は取り壊され、道営アパートも建て替えるの構想があると聞きます。

このような環境の変化の中で、卒業後は数年で地域を離れるという状態が今でも続き同窓会はこの先成り立っていくのかという危惧の念を抱いたこともありました。しかし、在学生の父母の中に同窓生が見られるようになってきたことを聞き、今後はこのような方々を中心とする地域に根ざした新しい同窓会の活動が飛躍的に始まるのではないかと期待できるように感じました。

これからも母校が同窓生にとって、中学時代の思い出のシンボルであるとともに、また在学生にとっては楽しい学校生活の場であり、ますます発展することを祈ります。



# 新しい時代に向けて

生徒会長 多田 徳 広

僕たちの五稜中学校は、今年、開校三十周年を迎えます。開校当時から、風雪に耐えてきた校舎は三十年が過ぎて古びてしまいました。今も僕たちをあたたく見守ってくれます。今日までの三十年の間に、多くの先輩方が、学習・文化・スポーツなどいろいろな分野で輝かしい成績を収めた。数々の歴史と伝統を残して、この学舎から巣立っていきました。そして、三十周年を迎えた今、僕たちは後輩としてその歴史と伝統を受け継ぎ、新しい歴史と伝統を築いていかなければなりません。この三十年という長い間に、生徒は次々と入れかわりましたが、学校生活の目標はその間変わることなく、「五稜三訓」という形となって現在に受け継がれ、毎日の学校生活に今も息づいています。例えば、「五稜三訓」の一つめの「にっこりあいさつ明るい一日」は朝のあいさつ運動で、二つめの「進んで清掃きれいな学校」は毎日の清掃や、年二回の校外清掃で実践されています。また、三つめの「自主的判断みんな協力」は、委員会などの生徒会活動をするうえで心がまえとなっています。この「五稜三訓」のおかげで、あいさつなどもさかんに交わされるようになり、学校全体が活気づいたように感じられます。このようなすばらしい伝統を残してくれた先輩方に感謝するとともに、僕たちはこの伝統が途中でなくなってしまうことのないよう、しっかりと後輩に伝えていかなければならないと思います。

しかし、生徒にも欠けているものがあるようにしばしば感じられます。その一つは、積極性に欠けるといことです。こうしたことは、各専門委員の選出の時に見られます。自分から立候補する人は少なく、押しつけがちなことと見えます。これには、必ず自分以外の誰かがやってくれるだろうという気持ちがあるからだと思います。このように、生徒が生徒会の活動に積極的に参加せず、無関心では、せっかくの目標も無駄になってしまいます。

これからの生徒会には、自分から進んでやる必要があります。そのためには、まず、生徒一人一人が五稜中の生徒としての自覚と、何事にも挑戦していこうとする気持ちを持たなければなりません。そして、そこから生徒に積極性が生まれ、生徒会活動もより活発になって、五稜中学校を今よりもっと良い学校にすることができるよう。

僕たちは、この三十周年を一つの節目として、今まで以上にこの五稜中学校が発展するために、先輩方の残してくれたすばらしい伝統を受け継ぐだけでなく、自己を見つめ直し、新しい伝統を築きあげていくべきではないでしょうか。そして、生徒一人一人が、お互いに助け合って生きていかなければならないと思います。そして、未来をどのように創造していくかが、残りわずかな二十世紀をしめくくり、二十一世紀を生きていく僕たちの課題であると思います。

最後に、この三十周年という記念すべき年に巡り合えたことを誇りに思います。

## 回想



第五代校長 金澤 浩

五稜中学校が創立三十周年を迎えられたことに、心からお祝いを申し上げます。私の五稜中勤務は、昭和四十八年四月から五十二年三月までの四年間でしたから、現在の生徒諸君の誕生前後くらいの頃でしょうか。いささか昔のことになりました。

かつて、昭和五十六年の創立二十周年記念誌に、寄稿を依頼されて、当時の思い出や感想を述べました。それは、校舎を始め既に設置されていたプールにも、恵まれた環境にあると感じたこと。充実した視聴覚機器。市内でも先進的な施設・設備を保有した放送教育の実践研究を、学習指導にも取り入れていたこと。また、学校教育を支える父母の皆さんも、非常に協力的で、PTA活動や母の会の皆さんの熱意と行動力のすばらしさ、などをです。

ところで、退職後書齋を整理していて、在職中勤務した中学校の生徒会誌が、あちこちから出てきたので、学校ごとにまとめました。「五稜」は四冊。十三号から十六号まで。巻頭の私の文章は、当時の五稜中の生徒像を念頭に置いて書いたもの。何を書いたったかな、と一読してみても、しばし往時に思いを馳せました。

「若者がもっと知っていたら、老人がもっと行動できたら。行動力と共にもっと知識を求めよ。」「ドーディの名編『最後の授業』から、集中力が学習に必要」「死ぬまで学習を続け、失われゆく視力に、点字まで習おうとしたみどり学園（現養護学校）のS君のことから、健康に感謝して豊かな心で生きよう。」「エジプトのプトレマイオス一世に、『学問に王道なし』と説いたユークリッドの話」などがありました。そして、現在の中学生諸君なら、果してどう受け止めるだろうか、とふと考えたことでした。



## 五稜中に自信と誇りを

第八代校長 寺岡 守男

「五稜」の名前はいつもさわやかに、私の気持ちに映ります。「五稜中学校」はいうに及ばず、生徒会の諸君がつくった「五稜三訓」にしても、PTAの集まりの「五稜の会」など、どれも心地よい思いをよみがえらせます。

緑にかこまれた「史蹟五稜郭」を校区にもつ「五稜」の名が、歴史と文化の香りをにじませてくれるからでありましょう。しかし、それだけではありません。創立三十年以来、「誠実・協調・真理探究」の校訓を無意識の中にも意識されてきたことが大きなバックボーンになってきたのではないかと思うのです。

時には、学校の荒廃が心配された時期の中にあっても、着実に落着いた学校生活を築いてきたのも、「誠実」をだいに、飾ることなく、生徒・先生・父母の方々と心の触れ合いの絆がしっかりしていたからではないでしょうか。

本校創立の頃、函館は東部や北部へと大きく広がっていき、発展の先端の頃に五稜中学校が誕生しました。したがって、進取の精神に富んだ地域でありながら、どっしりと着着きのある風気が学校にも大きく反映しています。

この五稜中学校にお世話になり大変有難く思っておりますが、また、ひそかに、五稜中学校こそ生徒の学びやであり、学校というよりも学園としての誇りを抱えておりました。

二十一世紀にむけて、更に、五稜中学校の発展を楽しみにしております。どの生徒にも誠実に生きる力があり、真理探究の意欲があり、それが、社会の一員として、職場の一人として、活躍できる人材にあるからであります。

## 限りない未来を祝福して



第十代校長 高橋 長一

三十周年おめでとうございます。五稜中学校がこの三十年にわたって刻んで来た歴史は名実ともに充実したものと云えるでありましょう。地域と学校の結束と心の結びつきは人間性の豊かな、感性に優れた多くの卒業生を生み出した源であったと思います。

わたしにとっては、教職最後のわずか二年間の勤めではありましたが今でも当時の生徒諸君のひたむきで、真摯な姿が目につかび、明るい歓声が耳にこびりついております。

「輝け、五稜の星」の旗は北海道の代表校として出場した卓球全国大会で一躍五稜中学校の名をとどろかせ、大きな感動を呼び起こしたものでした。

又、本校は早くから国際化社会に向けての国際理解教育に関心をもち学校あげての積極的活動を進めて来ました。第七代の村上健介校長先生以来その精神と活動は引き継がれ現在に至っております。

わたしは幸いにも在職最後の年に当函館市の姉妹都市カナダのハリファックス市にあるフェアビュー中学校と姉妹校提携調印のためハリファックス市を訪れる機会を得ましたが、驚いたことにハリファックスに本校の卒業生が二人も留学しており、その縁の不思議さと世界は狭く、近くなったものだとつくづく実感させられました。

今もその友好交流活動は活発に続けられていると聞いておりますが国際的な視野に立って、世界を舞台に活躍する本校卒業生の将来の姿を羨しみにしております。

永遠に発展するでありましょう五稜中学校の未来に限りない祝福を心から贈りたいと思います。

## 私にとっての五稜中学校



旧職員 川島 啓右

ひんがしに 古城いだきて たたなわる五稜が丘は……。この校舎でのすべての営みは、以後の私の教職生活に、大きな影響を与えてくれました。

お電話をいただき、三十周年記念の年とのこと。五稜中より、長万部中、湯川中、そして汐首小と移り、その間、僅か五年ではありますが、すでに十年以上も経過したように、しみじみさせられます。当時、一緒に勤務しておられた先生方も現在住所録を見ますと僅か数名。一番お世話をかけた私に「思い出を……」といわれたものと思います。

昭和五十九年四月から六十二年三月まで三年間、元々非才で何ら成すこともなく慚愧に堪えぬものがあります。しかし、いつも思い出されるのは。常に率先の行動で私たちに範を示された寺岡校長先生、言葉は厳しくも温かい心で指導頂いた押沢校長先生、出会った生徒たちのいるいろいろな表情・行為、PTAの父母の方々の文化祭や秋の運動会での協力の様子、いろいろな態度で指導頂いた先輩の先生方の温情、そして、特に、生徒たちのことごとで時々、先生方が互いに支え合い、進め合った仕事のひとつ一つが今もはっきり脳裏に焼き付いております。

学校が変わっても、教育の場面、場面において、五稜中での経験が、私の心の糧となつて、自分の言動に息づいていることに気が付き、改めて汲めども尽きない五稜中の心をみる思いにさせられております。

校訓で築かれた三十年の遺産と、五稜三訓の伝統を、更に創造発展されますことを心から祈念いたします。

## 暖かさと信頼感の中で



旧職員 大坂 邦子

私は昭和五十五年から九年間五稜中学校にお世話になりましたが、私の教員生活の中で一番居心地の良い学校でした。職員室は温かい雰囲気にも包まれ、しかも私にとっては先生方の一言一言が栄養になり、快適な毎日だったように思います。

生徒も素直で、また活動的でした。その中で、生徒会を中心とした新しい行事の試みが次々に行われていきました。五十五年に行われた運動会は、すべて生徒の手でという事で、道具作りは大変な苦勞でしたが、生き生きと、また燃えるように取り組む姿に感動しました。五十八年の国際交流では、英語があまり得意でない生徒もがんばって何とか書き、今度は相手からの返事を心待ちにしている様子はいいものでした。そして五稜三訓。これは学級や委員会でも何度も討議をし、評議委員会で決定したのですが、この内容については学級の反省の基となったり、弁論大会の演題に取り上げられたり、生きて働いているものでした。その他、交通安全宣言などもあります。いずれにしても生徒の生き生きとした活動を中心に新しい伝統が作られようとした時期だったと思われず。

個人的な事で恐縮ですが、退任式の挨拶の時、ステージに上ったら一・二年の後ろに卒業生がズラーと並んでいるのです。その顔を見るともう言葉になりませんでした。毎日言い争っていたのがうそのようでした。そして、職員室にもどってきたら五稜中の初めての卒業生が背広に身を包み大きな花束を抱えて立っていました。遠くからわざわざ来てくれた生徒もいました。胸がジーンと熱くなりました。このようなすばらしい経験を見せてもらった五稜中は私の最高の思い出の学校として心に残っていくと思えます。

## 当時をしのんで



旧職員 橋 詰 尤子

早いもので、退職してから二年半過ぎました。今ここで当時のことをいろいろと思い起こしております。五稜中学校に赴任しましたのは昭和五十七年、退職は平成元年ですから六年間の勤務でした。移動にあたり、勤務希望を五稜中と出したしたらその希望がかない、驚いたこと、嬉しかったことを今もよく覚えております。そして満ち足りた気持ちで赴任したのです。

前任校は旭中学校でした。ペーパードライバーになるために車の免許をとったと笑われている私は、本通町からバスで通勤です。遅刻してはならじとバス停まで毎朝まるでジョギングです。(おしくてハイヤー利用も何度か)それががらりと変わり、春は五稜郭公園の桜のつぼみが日に日にふくらんで行く様子を、自転車のペダルを踏みながら眺めやり、また堀の鯉の飛び跳ねる音を耳にし、渡り鳥の群れているのも眺め、雪の時期は徒歩で、それはそれで風情があり、四季の移り変わりをたんのう出来ました。

さて、学校の方はというと、生徒はおおむね素直で人なつこくすぐ打ち解けてくれました。今でも私を見かけると声をかけてくれます。私の方も高校生に出会うとついつい知っている顔をさがしている自分に気づき苦笑しています。

今日のおくせくとした社会の中で、通勤の際の自然とのふれあいは私をせいたく気分にかけてくれましたし、生徒とは仲よく過ごすことが出来ました。それなりに忙しかったけれど、私にとりましては五稜中学校は良かった。そして最終勤務校が五稜中学校で良かった、という思いを強くしております。

## 恋しきはボンクラ、 今も昔も



旧職員 大野 哲朗

まだ夢に見るのです。しかも、コピー機の前で「私、二百枚ですでお先にどうぞ。」などと言っている中々のものです。そして「退職したのだ。従って出勤不要。故にこの仕事の要なし」という思考と「懐かしさ」が交錯し、遂に「夢」という判定に至るまで、かなりの時間を要するのですが、不思議なことに極めて具体的な「実務」に関することが多いのです。

私は、武田斐三郎が活躍した当時の箱館奉行、堀利熙、村垣範正の人柄に強くひかれます。安政元年（一八五四）のペリー再航直後、二人は幕命によりエゾ地見分に江戸を出立、三廩逗留中に松前候から箱館でのペリー応接について、援助要請の急使が来るのですが、候贈呈のカステラ一箱を返却しています。また、旅行中のわらじ代は個人負担とし、一里一足の割で全行程二千二百六十二足、代金十三貫五百七十二文を支払っています。

二人がカラフトのシラヌシに至った安政元年六月十九日の夜、堀は山の弃天社に村垣を誘い、横笛を奏します。遠く波の響きが和していました。この日は堀の誕生日でした。しかし、この六年後に切腹。重大な公務上のことが原因と推測されています。

安政四年、村垣は何千人ものアイヌに種痘を施して危機を救います。彼はエゾ地巡回中に老人や孝行者を慈しみました。箱館奉行は今の知事に当るでしょうか。彼を「封建的ボンクラ」と評した作家がいます。でも、私は思うのです。今の無節操な世情は、「典雅でボンクラな実務派」の不在によると。特に指導者層に。

だが、五稜中のここかしこには、その光る姿が確かにあった。私の夢も、それ故にこそと納得これ努めるのであります。

## 五稜中学校の思い出



旧職員 石井 寿八

五稜中学校に勤務し、途中二年間の外勤(?)をはさんだとはいえ、前後十年間にわたってたいへんお世話になりました。この間、数多くのことを学ばせていただきました。

赴任当初驚いたことの一つに、父母の皆さんがよく学校を訪れることがあります。毎時間どなたかが職員室におられますし、父母懇談会はもとより、PTA関係においても多数の方々が集まり、子どもの生活を通して交流し合うことでした。今日、学校はもちろん、社会の教育力、家庭の教育力が問われているところですが、都市の中心部に位置している学校で、何かにつけて学校を基盤に考えてくれることはありがたいことでありました。PTA役員の皆様方のご苦労によることでしょう。殊に文化祭は庄巻でした。そして、すばらしい先生方と出会えたこともしあわせでした。

「荒れた中学校」の時代から現在まで、多少の波風はあったものの、安定した学校でした。これは先生方が常に生徒を中心とした授業、学級づくりに努めていたことにはかありません。とにかく職員室に生徒がよく来ます。「わからないから教えて」から単に遊びに来る子まで。生徒を大事にする。生徒の欲求にこたえます。校長先生を中心とした先生方の姿勢によるところでした。

現在、国定公園大沼の子どもたち、その父母とともに地域のセンターとしての学校づくりに励んでいるところですが、ことあるごとに「五稜ではどうしていたっけ」と考えるところです。三十歳代を迎えた五稜中学校。生徒数が減少傾向にあるとはいえ、ますます充実し、函館市を代表する学校の一つでありつつけることを念じてやみません。

## 懐かしい五稜中学校

第二回生 佐藤 洋



私が五稜中学校の門を初めてくぐったのは、昭和三十八年の二期が始まる頃でした。

父の仕事の関係で、転校が多かったわけですが、新築間もない校舎は初めてだったので、期待に胸をはずませていたことが思い起こされます。

当時の中学校周辺は、市営住宅や道営住宅の新しいアパート群が建ち並んでおり、まだ野原などが多く残っている閑静な地域でしたので、母が呼びに来るまで、時間を忘れて同級生達と遊び回っておりまして。

いま、縁があって渡島支庁に勤務することになり、先日、母校とその周辺を歩き回ってきましたが、市営住宅は建て替えられ、新しい住宅が建ち並び、環境はすっかり変わっております。

また、道営住宅も近い将来、建て替えされると聞き、年月の移り変わりの速さを思わずにはいられません。

このような環境の変化の中でも、我が母校は、当時の姿のまま暖かく私を迎えてくれました。懐かしい、遠い昔を思い出させてくれて、ありがとうございます。

五稜中学校が創立三十周年という而立の年を契機とし、今後ますます発展し続け、大きな夢を持った多くの卒業生を社会に輩出されるよう、心からお祈り申しあげます。

## 思い出の水泳部

第十二回生 青山 田鶴子



私は丁度昭和五十年の卒業になります。普段はスポーツに縁のないものが、第二回と七回の卒業である姉兄にならうように、水泳部に入部しました。顧問は金崎先生。当時自由形では市内一、二位を争う男女の先輩達に恵まれたものの、記録とは全く無関係に、健康第一で泳がせてもらっていました。「一日三千は流しているか。」との永谷先生の言葉に辟易しながらも、夏季はマイペースで。冬のトレーニングも一度位しか記憶にない、あまり真面目とはいえない部員でした。

それでも六月頃になるとプール掃除が始まり、バケツで何杯もの泥を掬い出した後、水色に蘇ったプールの底に、ひたひたと流れ込む最初の水入れの様子が鮮やかに思い出されます。一年中、足の裏以外は白いところが無い程に日焼けした男子部員が水の貯まるのも待ちきれずに、まだ底を這って広がっていく水に寝ころがって水の感触を楽しんでいたのが浮かんできます。先輩の中には高校進学後もこの出来の悪い部員を再び勧誘して下さった方もいました。残念乍らその方は、大学の時、急性の疾患で亡くなったと聞き、中学生時代の勇姿が余計鮮明に記憶に残っています。

その後すっかり運動から離れて十年、教職四年目に帰函した私は、中体連バドミントンで再び母校を訪れることができました。何も変わっていない校舎内に、引きこまれるような不思議な懐かしさを覚えました。体育館へ足を入れると、今は自分の生徒達の熱気と興奮に溢れていました。そして、体育館の非常口へと目を遣ると、その開け放たれた先の方にプールへ続くすのこのびていて、思わず十年前に戻ったような気持ちになっていました。

## あれから早や十年

第二十一回生 中田 宏



創立三十周年を、心からお喜び申し上げます。

私が、五稜中学校の一年生だった昭和五十六年、五稜中はちょうど二十周年の年でした。あれからもう十年も経ったのかと思うと、五稜中時代の様々な思い出が蘇ってきます。

まず、真っ先に思い出すのは部活動の事です。吹奏楽部に入れた私は、入って間もなく、ろくに吹けないうちから五稜郭祭のパレードに出場し、合奏やパレードの面白さを知りました。

そして、顧問の坂田先生の熱心な御指導により、二年と三年の時には、吹奏楽コンクールで全道大会に出場できました。

また、修学旅行も良い思い出です。三陸海岸や中尊寺などが印象深いのですが、友達と甲板の上で遊んだ、青函連絡船が今も無いのはとても残念です。

一昨年、私は、母校である五稜中で、教育実習生として先生という立場から生徒と接することが出来ました。そこで、最も印象に残ったことは、部活動が昔ほど盛んではなくなってしまったのではないだろうか、という点です。

今になってふり返ってみると、先輩・後輩の関係、また、みんなで一つの目標へ向って努力するということの大切さを、改めて考えさせられます。

私にとっての五稜中学校時代とは、このように一生懸命になるものを見つけ、それに向って夢中になっていた頃でした。

今の、そしてこれからの五稜中の生徒にも、部活動のみならず何か夢中になれるものを持って、五稜中で学んでほしいと思います。

## 荒波にもまれて

母校を思う

第二十九回生 井川 大輔



僕達が卒業して、半年が過ぎていきました。

四月に高校に入学して以来、この半年間はとても短いものだったように感じます。僕が高校に入学して一番驚いたことは、学校内がとても活発だということでした。勉強にしても、部活動にしても色々な面で生徒が自覚と責任とやる気をもって取り組んでいるのです。そんな中でも一番はやはり文化祭への取り組みでした。学級、いや学校全体が一丸となって一つの行事を成功させようという熱意は、とても中学時代には見ることでできないものでした。

しかし、そのようなよいことばかりではありません。勉強は中学の時のように丁寧には教えてはくれません。わからない点があったら、自分で調べるか、その教科の先生にわかるまで教えてもらわなければなりません。そうしないと、わからないものが積もりに積もって後で大変苦労することになってしまいます。部活動でも、市内や市外の各校から選手が集まってくるのですから、それだけレベルも高く、ついていくためには、自分自身の気力と努力が必要です。

以上、僕なりに考えた高校生活について述べてきましたが、実際に高校生になってみると、時のたつのはすごく速いです。やりたいことが沢山あるのに結局何一つ出来ずに終わってしまいます。ですから、これからのことについて十分見極め、自分のやりたいこととやるべきことをしっかり考えて、これからの五稜中での生活、悔いのないよう、しっかりとがんばってください。



佳き友に恵まれて十年、  
五稜の会

元PTA会会長 菊地 富男

この度五稜中学校創立三十周年にあたり、その輝かしい発展の歴史を振り返りながら、二十一世紀に向けた指針となる記念誌を発刊されますことは、大変意義深く、時宜を得たものと御同慶にたえません。五稜中は伝統的に歴代の校長教頭初め、先生方とPTAの諸先輩の、教育への情熱と理解と協力の賜が、今日の五稜中の三十歳の姿であり、感激を新たにしております。

昭和五十六年の創立二十周年に生徒達と一緒に汗して植えた記念樹は、今は一回りも二回りも大きくなっております。その年に卒業した生徒達は二十四、五歳になりました。恐らくそれぞれ一人一人の生き方で記念樹の様に、大地にしっかりと根を張って遅く伸び伸びと頑張っていることと思います。丁度私の会長を務めた年で、一つの節目にPとTが一丸となって活動した記憶が今尚鮮明に写し出され、同時に当時の先生方と父母役員の方々の顔が、次々と浮かんで参ります。本当に心からお世話になった諸兄に感謝しております。昔から「水と火で物を煮る」という言葉があります、人材が適材適所に配置され、各人がその部所で持てる力を充分發揮して戴けたことが結果的には、生徒達の活動に最適な環境づくりであったと自負しております。お陰様で在任期間中、多くの友を得、くしくもそこに芽生えた絆が十年経過して尚今日、お付き合いとして続き、年二回くらい、何かと理屈をつけて集まり、今年このグループに「五稜の会」と命名、杉山市議を元締めとし、五稜中PTAのOBとして、末長く学校の発展を見守って参りたいと会員一同考えております。現在活動されておられるPTAの皆さんや生徒諸君の御健闘を祈念しております。



PTA活動による  
思い出に寄せて

元副会長 藤井 信子

五稜中、三十周年おめでとうございます。  
「原稿を……」と頼まれて、引き受けはしたものの突然のこと  
で、思いつくことと申せば、三人の子供達がお世話になりました  
時にさせていただいたPTAのお仕事のことでございます。

親子で初めて五稜中にお世話になった年に広報部、次の年には文化部長という大役をおおせつかり不安で一杯でした。が、諸先生方と大勢のご父母の方達に教えていただきながら数々の思い出を一杯いただきました。そのかわりは、まさに三者一体、学校を通して、互いが心を通わせる貴重な触れ合いの時間を持たせていただいたという思いをいまだに抱いています。また、希望を包みこむ学校、その学校の中で良い師と巡り会い、そして、それを素直な思いで受け入れ、応える子供、このよいかかわりがそれなりに素晴らしい学校を作っていくのだという思いがしています。勿論、子供は大半家庭にいますが、学校生活もまた大切な人生の場であり、学校側と共に育んでいくもの、だから熱心な思いを通わせるお役があるのですよね。そのお陰で、今我が家の子供達も、五稜中という素晴らしいキャンパスの中で育まれ、自分なりの人生を送っております。このことが感謝の印の一つになるのです。  
素晴らしい出会いの中で、自分自身のための勉強をさせていた  
だいたことを今また思い出します。在校生の皆様もぜひ大勢のお  
友達と多くの思い出作りをし、PTA活動の中で、素晴らしい学  
校となりますよう一人一人が努力と工夫を重ねて下さい。  
これからの大いなる躍進のため、意気高らかに力を合わせて、  
ますますの良い学校づくりがなされることをお祈りいたします。

# 三十年のあゆみ





「五稜中」の1年生誕生 S37



僕らの学校ができるぞ! S36

# 沿革

〔昭和三十六年度〕

4・1 函館市立大川中学校田家分教場として発

足。大川中 三学級、中央中 四学級

第一回入学式（三〇四名・一年生だけ）

4・6 父母と先生の会発足。

5・26 生徒会発足。初代会長渡利三郎君。

6・17 新校舎建設地鎮祭。

7・22 大川中三学級を中央中校舎に収容。

7・22 (別居生活に終止符)

8・18 校舎 一期工事着工。

9・23 (僕らの学校ができるぞ!)

8・18 母の会結成。初代会長及川キリ氏。

9・23 第一回運動会五稜郭公園で挙行。

12・15 (雨にたたられました。生徒が出席する

12・15 第一期工事検定(教室14、放送室、保健

12・19 室) 新校舎へ移転完了。

12・21 新校舎移転式並びに第一回文化祭。

3・6 校章制定。五稜郭を形どり、花で文化、

蕾で若い力を表現。

〔昭和三十七年度〕

4・1 校名「函館市立五稜中学校」と決定。

初代校長沼山吉之助氏



「調理のコツは…」母の会の画面

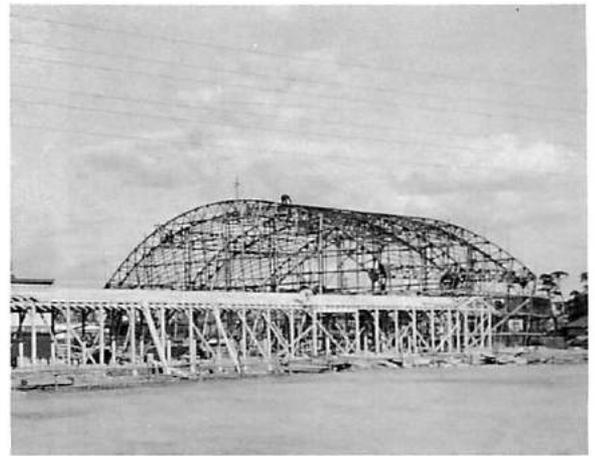


意気高らかに大運動会





道徳教育研究校に指定される S41



「体育館ができるぞ」 S37

4・2 独立開校式挙行。

12・26 体育館第一期工事検定。

3・27 第二期工事検定。(教室、職員室、校長室、事務室、教材室、相談室等)

〔昭和三十八年度〕

4・6 第三回入学式。

(これで全学年そろいました)

10・10 校歌、校旗制定。

12・24 第三期工事検定。(理科室、家庭料室、暗室、ミシン準備室、展示室)

3・10 第一回卒業式挙行。(三一〇名)

3・10 同窓会結成。初代会長藤田真司君。

〔昭和三十九年度〕

12・28 第四期検定。(技術室、水洗便所)

3・15 第二回卒業式。(三三〇名)

〔昭和四十年年度〕

8・7 健康保健委員会結成。

9・8 女子生徒の標準服制定

(他校に見られない斬新なスタイル)

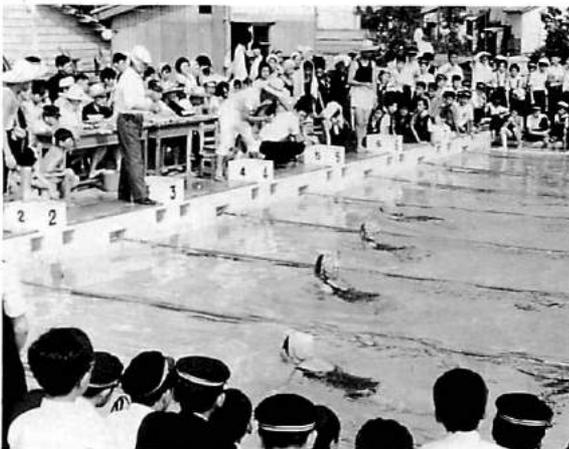
12・1 第五期工事検定。(美術室、音楽室、水洗便所)

3・15 第三回卒業式。(二七七名)

〔昭和四十一年度〕

4・1 みどり学園中学部二学級、的場中から移管。

7・27 函館市道徳指定校委嘱。昭和四三年まで。プール完工。



「全校皆泳をめざそう」を合言葉に S42



修学旅行、テープを手に「行ってきまーす。」 S38





「港南中のみなさん、ようこそ」 S49



「待ちに待った給食だ。」 S48

4・9 機械警備に伴う校舎管理始まる。

〔昭和五十二年度〕

3・15 第一四回卒業式。(二二一名)

10・3 全道PTA函館大会。

9・10 全道理科研究大会(本校会場)。

〔昭和五十一年度〕

3・15 第一三回卒業式。(二二一名)

12・17 みどり学園校舎落成。

9・23 蛇田PTA本校視察。

8・11 グラウンドに赤土入る。

7・16 フール防犯灯・排水口完成。

〔昭和五十年度〕

3・15 第一二回卒業式。(一九九名)

7・12 武蔵野音楽大学生による演奏会。

7・8 新机・椅子入荷(三九七脚)。

5・28 留萌港南中学校との交歓会。

5・15 母の会総会。

〔昭和四十九年度〕

3・15 第一一回卒業式。(二二七名)

12・1 函館・亀田市合併、生徒交歓会。

7・9 交通安全教室をグラウンドで行う。

4・9 給食始まる。(状況をテレビで放映)

〔昭和四十八年度〕

3・15 第一〇回卒業式。(二四三名)

10・8 PTA体力テスト。

〔園〕

10・3 全道病弱・虚弱教育研究大会(みどり学



「いらっしゃい。」お母さんも参加の文化祭 S52



交通安全教室、「右見て、左見て、…」 S48



開校20周年記念文化祭、「さらに前進」をテーマに S56



ケーナ演奏会 民族衣装も美しく S55

- 5・28 創立三〇周年記念体育大会。
- 〔昭和五十六年度〕
- 3・14 第一八回卒業式。(一九八名)
- 1・24 シェル科学コンテスト全国一位。
- 1・13 市内P連より優良PTAとして表彰される。
- 10・14 校内チャイム取り付け(PTA寄贈)。
- 7・4 生徒会主催大運動会。
- 7・4 新堀ギター演奏会。
- 5・21 ケーナ演奏会(アントニオ・パントーハ氏一行)
- 4・13 職員による下駄箱づくり始まる。
- 〔昭和五十五年度〕
- 3・15 第一七回卒業式。(一七九名)
- 12・25 階段踊り場総サッシ窓となる。
- 12・5 PTA給食試食会。
- 5・22 みどり学園が道に移管、道立養護学校となる。
- 〔昭和五十四年度〕
- 3・15 第一六回卒業式。(二一三名)
- 12・21 グラウンド東側フェンス工事完了。
- 12・7 体育館水銀灯・二間廊下照明設置。
- 10・7 第一回校内マラソン大会(五稜郭公園)。
- 9・18 一し教室完成。
- 8・20 体育館背面のタキロン修理。
- 11・30 優勝旗・盃等陳列ケースPTAより寄贈。
- 3・15 第一五回卒業式。(二〇三名)
- 〔昭和五十三年度〕
- 5・27 国際電信電話教室開催。



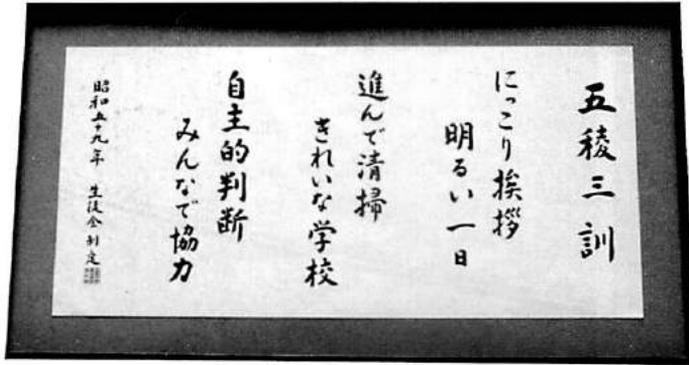
開校20周年祝賀会 S56



校内マラソン大会 ゴールめざして



大運動会 思い出のスナップ S58



生徒会で「五稜三訓」を制定 S59

- |                |   |  |        |                |               |                    |          |                |                                  |  |  |             |           |             |
|----------------|---|--|--------|----------------|---------------|--------------------|----------|----------------|----------------------------------|--|--|-------------|-----------|-------------|
| 3・15           | 12・1  | 11・30  | 6・23   | 3・15           | 11・4          | 9・26               | 5・8      | 3・15           | 6・14                             | 6・29   | 11・21  | 10・1        | 9・27      | 6・3         |
| 第二二回卒業式。(一八四名) | 生徒会を中心に「五稜三訓」を制定。<br>(生徒会が制作した「五稜三訓」のパネルを南北両玄関の壁面上部に掲げる。) | 生徒会で「感謝の会」を開く。<br>(事務員、用務員、給食員のみなさんに生徒から感謝の意を伝える。) | 音楽鑑賞教室 | 第二二回卒業式。(一九六名) | 全市文化祭に吹奏楽部参加。 | ステージ、二〇台になる。(五台入る) | 前庭巨木の整理。 | 第二〇回卒業式。(一八二名) | 教授来校、生徒と懇談(国際交流)。<br>宿泊研修を初めて行う。 | 第三回全道中学英語暗誦大会で第二位。<br>(入賞した田中浩至君は、海外に派遣される。) | 第三回全道中学英語暗誦大会で第二位。<br>(入賞した田中浩至君は、海外に派遣される。) | 創立二〇周年記念誌発行 | 創立二〇周年記念式 | 創立二〇周年記念植樹会 |
|                |   |  |        |                |               |                    |          |                |                                  |  |  |             |           |             |



五稜郭養護学校と交流学習 S60



感謝の会「お世話になっています。」 S59



ああ、親子の断絶、どこのこと（登校観察）



花に彩られるのもま近、「ありがとう。」 S62

- 7・2 セントメリーズ大学文学部長講演
- 〔平成元年度〕
- 3・15 第二六回卒業式。（二二四名）
- 9・28 第一期分校舎工事完了。
- 8・30 留学生との交流集会を開く。
- 火災受信機取り替え等。
- （窓のサッシ化、床の張り替え、防火扉
- 7・24 第一期校舎大規模改修工事始まる。

〔昭和六十三年度〕

- 6・23 学級花壇づくり開始（父母多数参加）。
- 9・29 第一回校外学習（函館の旧跡巡り）。
- 3・15 第二五回卒業式。（二一三名）

〔昭和六十二年度〕

- 3・14 第二四回卒業式。（二〇二名）
- 3・12 「交通安全宣言の集い」を開く。
- 12・19 体育館改修工事終わり、完成引き渡し。
- 10・16 道立美術館の美術展の鑑賞始まる。
- 10・4 交通安全街頭啓宣活動（生徒会中心）

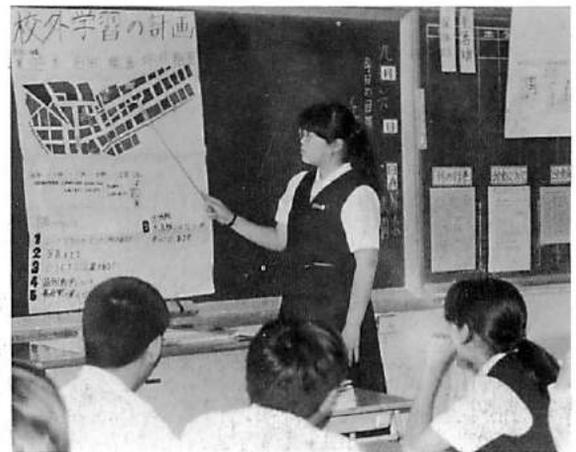
- 9・26 吹奏楽部、五稜郭養護学校を訪問。
- 6・25 アラスカ留学生四名来校。
- 5・18 吹奏楽部五稜郭祭パレードに出場。

〔昭和六十一年度〕

- 10・7 北海道五稜郭養護学校と交流を始める。
- 3・15 第二三回卒業式。（二二二名）
- 10・3 第二五回文化祭（開拓と向上）。
- 6・4 第二五回校内体育大会。



卓球部、全国大会へ（松江市） H元年



校外学習 郷土を足で学ぶ S62~



雨に強いグラウンドにするぞ H3



ハリファックス市教育関係者と交流 H2

- 10・12 創立三十周年記念祝賀会。
- 10・4 創立三十周年記念式・文化祭。
- 9・6 創立三十周年記念演劇鑑賞。
- 7・12 函館市中体連野球大会で優勝。
- 5・30 創立三十周年記念体育大会をグラウンドで
- 4 グラウンド全面改修工事完了。

〔平成三年度〕

- 11・15 交通安全の集いを開く。
- 11・15 グラウンド全面改修工事始まる。
- 11・27 海外文通教室を開く。
- 3・15 第二八回卒業式。〔一九五名〕
- 9・29 交通安全の集いを開く。
- 7・20 国際交流センターより留学生が学校を訪問する。
- 5・15 ハリファックス市教育関係者来校。授業参観及び生徒と交流をする。

〔平成二年度〕

- 12・20 カナダ、ハリファックス市フエアビニュー中学校と交流調印のため校長が発出する。第二七回卒業式。〔二二二名〕
- 3・15 第二期校舎大規模改修工事完了。
- 9・15 はまなす国体炬火リレーに生徒一〇名参加する。(函館保健所千代台まで)
- 9・22 第二期校舎大規模改修工事完了。
- 11・8 ハリファックス市よりバブパイプ奏者が来校する。
- 8・30 卓球部全国大会に出発(松江市)。
- 8・20 在日留学生来校、全校生徒と交流会をもつ。
- 7・25 第二期校舎大規模改修工事始まる。(窓のサッシ化、床の張り替え等)
- 7・26 校門前に押しボタン式信号機がつく。



20年振りの笑顔のよさ H3

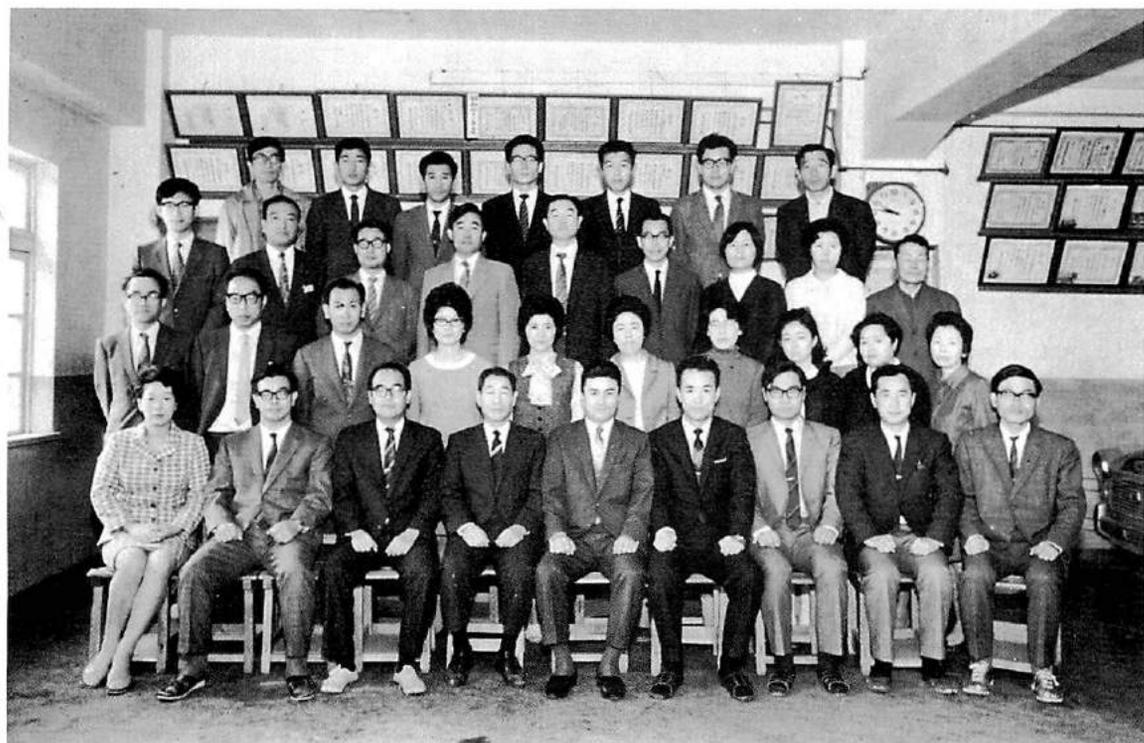


宣言は易く、実行は難し H2

昭和36年度 開校当時の旧職員



昭和46年度（10周年）の旧職員



昭和56年度（20周年）の旧職員



平成3年度 現在の職員



# 祝30

# 思い出のアルバム

## ＝ 学校行事 ＝



何をやっても30年記念、張切らなくちゃ!



30年代のスタートを切る入学式 H3



文化発祥の地道南に誇りを感じ



緊張と思いやりで胸躍る出会い



受験戦争って、ホントにくるのかな(修学旅行)



あなた作る人、ほく食べる人(炊事遠足)



生徒会の主役は君達だ



声をかぎりの応援に旗もなびく



五稜郭公園に快い汗を流す校外清掃



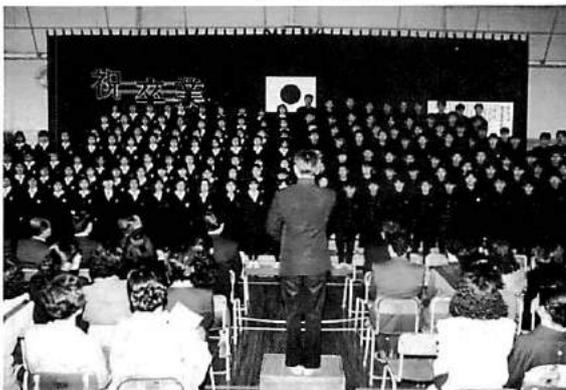
堂々と意見を主張する弁論大会



今、この手に卒業証書を



華やかに文化祭の幕開く



三年生の最後を飾る記念合唱



校外学習の成果を文化祭に展示



水泳部活躍 2年連続優勝 S46



体操女子 3年連続優勝 S44

部活動編



柔道輝く 3連勝、全道準優勝 S56



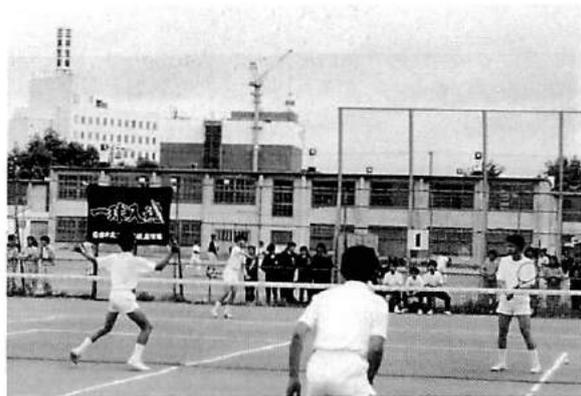
女子卓球部 3年連続優勝 S45

〔函館市中学校体育大会各種競技大会〕 五稜中学校の優勝・準優勝の記録

開催年	優勝	準優勝	優勝
昭和38年	バレーボール(女) 体操(男) 陸上(女)	卓球(男) 卓球(女) 陸上(総合)	
昭和39年	卓球(女) 陸上(男)	陸上(総合)	
昭和40年	卓球(女) 陸上(総合・男)	体操(女)	
昭和41年	体操(男) テニス(女)	卓球(女) 体操(女) 陸上(男・総合)	
昭和42年	バレーボール(男) 体操(男・女) 陸上(男・総合)	卓球(男)	
昭和43年	卓球(女) 体操(女)	テニス(女) バレーボール(女) 体操(男) 陸上(男)	
昭和44年	卓球(女) 体操(女) テニス(男)	テニス(女) 体操(男) 柔道(男) 陸上(男・総合)	
昭和45年	卓球(女) 陸上(男)	体操(女) 野球 陸上(総合)	
昭和46年	野球 体操(男・女)	卓球(男)	
昭和47年		卓球(男) 野球	
昭和48年	体操(女) テニス(男)		
昭和49年		体操(女)	
昭和51年		体操(男)	
昭和52年	体操(男)	体操(女) バスケットボール(女)	
昭和53年		体操(男) 柔道	
昭和54年	柔道		
昭和55年	柔道		
昭和56年	柔道		
昭和57年		テニス(男)	
昭和58年	柔道		
昭和59年		柔道 陸上(男)	
昭和60年		柔道 テニス(女)	
昭和61年		柔道	
昭和63年		卓球(女)	
平成元年	卓球(男・女)		
平成2年		卓球(男)	
平成3年	野球		



20年ぶりの優勝に喜ぶ（野球部）



エースをねらえ（テニス部）



全国に五稜中の名を（卓球部）



それ！スパイクだ（バレーボール部）



「エイッ」と気合いを入れ（女子柔道）



きまれ！シュートだ（バスケットボール部）



ナイス、バッティング（ソフトボール部）



足技では負けないぞ（サッカー部）



先輩達は偉かった、私達も頑張るぞ。

「吹奏楽コンクール金賞の記録」

昭和52年	9月15日	函館地区吹奏楽コンクール	金賞	地区代表)
	10月8日	全道吹奏楽コンクール	銀賞	
昭和54年	9月15日	函館地区吹奏楽コンクール	金賞	
昭和57年	9月15日	函館地区吹奏楽コンクール	金賞	(地区代表)
	10月9日	全道吹奏楽コンクール	銀賞	
昭和58年	9月4日	函館地区吹奏楽コンクール	金賞	(B編成)
昭和59年	9月1日	函館地区吹奏楽コンクール	金賞	(B編成・地区代表)
	9月28日	全道吹奏楽コンクール	金賞	(B編成)
昭和60年	8月31日	函館地区吹奏楽コンクール	金賞	(B編成・地区代表)
	9月22日	全道吹奏楽コンクール	金賞	(B編成)

「その他の大会優勝の記録」

柔道	昭和54年	10月14日	柔道新人戦優勝
	昭和59年	10月14日	柔道新人戦優勝
サッカー	昭和60年	5月25日	第一回函館地区中学校サッカー春季大会優勝
野球	平成元年	10月1日	野球新人戦優勝

「個人の記録」

テニス新人戦	昭和59年	9月15日	木村・葛西組優勝
テニスインドア	昭和60年	1月27日	木村・葛西組優勝 (全道大会に出場)
英語暗誦大会	昭和57年	9月25日	函館市大会 田中浩至 (代表となる)
	昭和57年	11月21日	第三回全道中学英語暗誦大会第2位に田中浩至君入賞、海外に派遣される。
社明ポスター	昭和60年	7月1日	社明運動ポスター最優秀賞 2年久保田司君

—以上 学校沿革史より抜粋—



心をついに、美しいハーモニーを



お茶は作法から 茶道部にて



国際交流の足跡



真剣な目、将棋クラブにて



文化祭をPTA広報紙に見る



聞かせます、おかあさんのコーラス

PTA活動



父母の会会員のすばらしい作品



文化祭の食堂は大繁盛

歴代校長・教頭・旧職員一覽

現	9	8	7	6	5	4	3	2	1	代
高	多	日	亀	辻	小	村	斎	太	井	氏
村	田	下	松	林	上	藤	田	上	上	名
昭	敏	修	光	俊	一	健	正	秀	豊	
三	夫	三	美	治	美	介	之	雄	豊	
吧	62	61	57	53	48	45	42	41	36	発令年月日
4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
吧	62	61	57	53	48	45	42	41	39	転退年月日
3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	
31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	

現	十	九	八	七	六	五	四	三	二	初	代
田	高	押	寺	村	斎	金	梶	三	藤	沼	氏
嶋	橋	沢	岡	上	藤	沢	原	谷	川	山	名
靖	長	正	守	健	正	四	毅	光	吉	之	
彦	一	治	男	介	之	浩	郎	一	夫	助	
吧	63	61	58	55	52	48	43	42	40	37	発令年月日
4	4	4	4	4	4	4	11	6	4	4	
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
吧	63	61	58	55	52	48	43	42	40	37	転退年月日
3	3	3	3	3	3	3	3	10	5	3	
31	31	31	31	31	31	31	31	10	25	31	

校長

教頭

土	萩	竹	坂	金	広	門	庄	杉	小	笠	窪	石	野	藤	堤	沖	荒	榊	吉	永	桜	松	菅	千	平	阿	西
門	原	内	牧	田	沢	脇	司	村	川	井	田	塚	々	原	野	谷	田	田	田	谷	井	井	原	葉	沼	部	谷
ハ	巖	達	豊	博	初	三	つ	智	敬	樺	孝	正	孝	一	喜	ミ	美	ヤ	嘉	恭	喜	昭	和	靖	光	富	
厚	ル	夫	秀	正	代	郎	や	博	一	子	成	晴	一	勇	久	ツ	代	エ	一	子	一	一	一	衛	雄	房	
					教	用						教				用	市	養								職	
					論	務						論				務	務	護									名
						38	38					37															發令年月日
						4	3	5				4	10	4													36
						1	1	1				1	11	6													4
																											1
41	46	46	42	48	42	49	44	39	40	39	43	40	45	46	40	40	43	42	39	38	46	42	41	39	45	45	45
3	3	3	3	3	3	3	6	3	3	3	3	3	3	3	4	4	4	3	3	3	3	3	3	3	3	4	3
31	31	31	1	31	31	31	30	5	31	31	31	31	31	31	30	30	5	31	31	31	31	31	31	31	31	20	31

金	上	保	田	笠	戴	武	勝	渡	望	主	米	福	滝	藤	三	岡	佐	婦	斎	象	武	大	日	奥	安	蘇	三
崎	杉	坂	嶋	島	下	田	野	辺	月	藤	田	寿	村	崎	上	本	々	山	藤	川	石	畑	野	寺	井	馬	刈
紘	宏	武	靖	寿	政	一	宏	年	節	忠	末	浩	孝	力	守	陽	祥	正	俊	光	金	三	一	明	孝	郎	一
一	子	道	彦	泰	寛	雄	生	平	春	子	夫	平	造	也	守	陽	子	宏	郎	正	郎	三	男	明	孝	郎	一
教	市			教	市	道	(	(	(			教	用		教	養				教		用	道			教	
論	務			論	務	務	)	)	)			論	務		論	護				論		務	務			論	
				42								41			40					39	39					38	
				4								4	5		4					4	3					4	
				1								1	1		1					1	5					1	
																											轉退年月日
48	45	48	47	48	43	46	44	45	44	47	51	42	49	45	45	50	41	44	48	47	40	40	44	41	44	47	47
8	3	3	3	3	6	3	3	3	3	3	3	3	3	4	3	3	3	3	3	3	3	1	6	3	3	3	3
15	31	31	31	31	30	31	31	31	31	31	31	31	31	3	31	31	31	31	31	31	31	3	30	31	31	31	31

杉浦	斎藤	八反田	玉木	亀松	藤井	沢村	林	高田	高橋	泉平	大田	村田	広沢	小西	柳沢	遠藤	大福	佐々木	館洞	川原	大竹	熊倉	山田	長尾	佐々木	福士	進士	和田	木村	本堂
ミヤ子	美都子	稔	忠	光美	光雄	佐次郎	俊夫	広栄	市雄	良子	元昭	倅子	博正	孝男	美代	一栄	幸宏	雄光	エ子	義勝	利典	孝子	敬生	重雄	繼昭	秀昭	照江	潤悦		
市事務職	"	"	"	教諭	夜警	用務	教諭	用務	導務職	"	"	教諭	(みどり)	教諭	市事務職	(みどり)	"	"	教諭	夜警	用務	養護教諭	(みどり)	(みどり)	(みどり)	教諭	市事務職	用務	教諭	
5	"	"	"	4	"	10	5	4	"	"	"	4	6	5	4	"	"	"	"	4	"	7	"	"	"	"	4	7	5	4
1				1		25	5	4				1	1	1	7					1		1					1	5	1	1
54	51	57	50	48	51	55	55	55	52	55	54	51	54	53	52	49	50	54	53	53	46	46	49	49	45	51	46	54	52	
6	3	3	3	9	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	9	3	3	3	3	3	9	3	3	
30	31	31	31	31	14	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	30	31	31	31	31	31	21	31	31	

熊谷	大久保	安井	伊部	小川	島村	板東	室田	松田	鈴木	伊藤	長尾	阿部	長岡	平向	鹿角	春田	谷口	永田	毛内	島貫	伊藤	早崎	深栖	田早	門馬	猪狩	田中	井上	酒田	小西
トシ	雄治	歳男	長	安紀子	和子	忠康	富夫	千秋	利治	英実	祥子	雍朗	正昭	貞重	令夫	むつゑ	幸一	裕三	茂二	讓子	邦子	石佳	久苗	早常	一則	恒也	貞興	文雄	政一	
給食	"	教諭	日直代行	市事務職	導務職	"	教諭	夜警	"	"	"	"	"	"	教諭	養護教諭	(みどり)	"	"	教諭	"	給食	教諭	(みどり)	"	"	"	"	"	教諭
5	"	4	"	"	"	4	9	"	"	"	"	4	"	4	"	"	"	"	"	4	"	4	8	7	"	"	"	"	"	4
1		1				1	24					1		1						1		7	16	16					1	
53						52								51	50					49	48								48	
5	3	3	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	4	3	3	3	3	3	3	3	3	
31	31	31	30	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	30	31	31	31	31	31	31	31	31	

松本	立川	石津	三河	山岸	寺根	山崎	長内	橋詰	小林	小林	網塚	山路	寺田	小柳	安栗	石名坂	石井	渡辺	佐々木	安藤	小藤	斎藤	中川	日向	大坂	坂田	竹村	原田	杉谷	穴谷
明恵	兼一	宏	岩夫	正善	美帆子	尤子	雄秀	充	剛	満理子	博	昭治	恵理子	克明	寿八	満夫	ヤユエ	勇	ひとみ	英俊	泰子	邦子	法行	英夫	岩雄	宏	栄作			
講師	"	"	"	教諭	日直代行	臨時事務	"	"	"	教諭	代替講師	"	用務	臨時事務	"	"	"	教諭	"	用務	臨時事務	市事務職	養護教諭	"	"	教諭	日直代行	教諭	日直代行	
4	"	"	"	4	"	"	"	"	"	4	10	6	"	"	"	"	"	4	"	"	"	"	"	"	"	"	4	12	4	5
6				1						1	26	27						1								1	22	1	1	
58	元	63	H2	H2	63	58	58	元	59	63	60	56	60	59	57	62	63	63	H2	60	63	56	60	62	元	59	62	57	62	54
6	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	11	5	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	5	3	3	3	3	3	12
16	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	19	15	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	14	31	31	31	31	31	21

松山元彦	齋藤克己	平野文子	沢部ハルエ	近江谷千春	小川ムツミ	齋藤直美	海老名貞夫	村井貞稔	辰宮一也	高橋郁子	泉田礼宏	国田安郎	吉田四郎	増川達	木村陽子	上田仁美	井上恵美	佐古美	(旧姓大久保)	吉田美奈子	大森武治	吉田夜	大野哲朗	伊藤陽二	中藤真之	伊藤英明	川島啓右	笠原皓一	武田蓉子	石橋典幸
"	"	教諭	給食	用務	市事務職	養護教諭	"	"	教諭	道事務職	"	"	"	"	教諭	時間講師	市事務職	"	"	"	"	教諭	用務	"	"	"	"	"	教諭	臨時
63	63	63	63	63	63	63	63	63	62	62	61	61	61	61	61	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	58
4	4	6	"	"	"	"	"	"	4	"	"	"	"	"	4	11	5	"	"	"	"	4	"	"	"	"	"	4	6	4
1	18	"	"	"	"	"	"	"	1	"	"	"	"	"	1	20	"	"	"	"	"	1	"	"	"	"	"	1	16	6
63	63	63	63	63	63	63	63	63	H	60	62	62	62	62	H2	62	60	61	62	60	61	62	60	60	60	60	60	60	60	58
2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	12	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	6
22	22	31	31	31	31	31	31	31	31	24	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	24

信田博之	藤原しのぶ	渡辺ゆみ子	渡辺悦子	杉山春吉	大村俊幸	井筒泰三	堀井俊邦	石井寿八	中谷満	木村以久子	浅井庸子	佐藤泰治	松本恭右	稲葉陽子	山本忠行
教諭	時間講師	"	"	"	"	教諭	日真代行	"	"	"	"	教諭	用務	市事務職	教諭
3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	63
4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
1	1	16	16	16	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	H2
31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31



# ( 歴代 P T A 役員名簿 )

年度	会 長	副 会 長	(備 考)
昭 36	鈴木 義 浄	谷岡 純海	角田 亮治 又坂日出生
昭 37	鈴木 義 浄	谷岡 純海	角田 亮治 又坂日出生
昭 38	鈴木 義 浄	谷岡 純海	角田 亮治 又坂日出生 (8月会長交代)
	又坂 日出生		笹島 吉平 (8月就任)
昭 39	千葉 順 亮	宮下 呂三	笹島 吉平 国立亨太郎 (○印母の会会長兼任)
昭 40	笹島 吉 平	石田 政治	国立亨太郎 棚池 神治 ○寺下 兼代
昭 41	笹島 吉 平	葛城喜三松	棚池 神治 ○寺下 兼代
昭 42	笹島 吉 平	葛城喜三松	棚池 神治 ○篠崎津枝子
昭 43	寺島 兼 代	葛城喜三松	荒川 定治 菅原 道雄 ○畑 露子
昭 44	菅原 道 雄	池田 泰	村山 貞雄 荒川 定治 ○山口シズエ
昭 45	筒井 義 定	野崎 悦郎	池田 泰 柴田 裕司 ○山口シズエ
昭 46	筒井 義 定	柴田 裕司	国立亨太郎 荒川 定治 ○今野 汀子
	池田 泰		(7月会長交代)
昭 47	池田 泰	国立亨太郎	柴田 裕司 荒川 定治 ○高萩 圭子
昭 48	国立 亨太郎	石畑 克己	高萩 賢一 工藤 猛 ○柴田 和
昭 49	国立 亨太郎	石畑 克己	工藤 猛 今野 汀子 ○柴田 和
昭 50	工藤 猛	石畑 克己	小原 幸男 今野 汀子 ○柴田 和
昭 51	石畑 克 己	小原 幸男	川野 宗雄 金浜 松雄 吉村 和子
昭 52	石畑 克 己	小原 幸男・向井 愛子・吉村 和子・十倉 久子・金浜 松雄	
昭 53	石畑 克 己	菊地 健・向井 愛子・金浜 松雄・吉村 和子・十倉 久子	
昭 54	石畑 克 己	沢口 俊郎・阿部 良子・山田 光治・稲葉 哲子・和田 京子	
昭 55	石畑 克 己	杉山 博康・阿部 良子・菊地 富男・稲葉 哲子・福留 陽子	
昭 56	菊地 富 男	杉山 博康・阿部 良子・中村 繁・幸田 小夜・真狩 啓子	
昭 57	杉山 博 康	大吉 啓・尾山 和子・中村 繁・工藤 秀雄・真狩 啓子	
昭 58	菊地 富 男	大吉 啓・真狩 啓子・工藤 秀雄・楠川 明男・藤井 信子	
昭 59	菊地 富 男	大吉 啓・真狩 啓子・楠川 明男・藤井 信子・宮崎 公彦	
昭 60	楠川 明 男	藤井 信子・宮崎 公彦・福留 陽子・佐藤 勉・笠原 由子	
昭 61	楠川 明 男	藤井 信子・宮崎 公彦・福留 陽子・笠原 由子・掛端 光子	
昭 62	楠川 明 男	掛端 光夫・藤井 信子・新野 紀子・工藤 秀雄・石黒 博邦	
昭 63	工藤 秀 雄	秋山 靖彦・藤井 信子・赤川 久美子・山田 信幸・佐藤 昭子	
平 元	工藤 秀 雄	秋山 靖彦 佐藤 昭子	
平 2	工藤 秀 雄	山田 信幸 佐藤 一美	
平 3	廣 部 七 郎	佐藤 一美 柴山 浩子 上田真由美	

# あ と が き

開校二十年代後半に在職する多くの我々にとって、多少の変動はありますが、五稜中は、生徒数漸減の時期を迎えたといっているでしょう。殊に肯函トンネル完成後は、急激な減少による学級減の痛みとなって現われ、数が少なければ少ないで生じる諸問題に立ち向かいながら勤務する毎日で、三十周年は観念の上のものといった感がありました。

記念事業案が出されても、まだ他人事であり、役割分担が記念誌編集という重荷を背負わされて、初めて現実のものとなり、時間との闘いが始まりました。

沿革の諸資料、節目に刊行された立派な記念誌などを手にして我々編集子の及ぶところでないな思いつながらも、別な面で、知られざる一というよりほんやりして気づかなかった五稜中の歴史の素晴らしさに目を見張る思いでした。

学力や部活動の向上・充実はもとより、諸行事の多彩さ。国際（国内）交流や、交通安全指導・環境整備など、我々の力を入れて取り組んでいる今日的課題が、創立当初より萌芽し、幾度かの波のうねりとなって伝統を築き、それがこの十年間では、例えば、「五稜三訓」として結実したり、交通安全宣言（第二次）となり、学級花壇の新設や校外学習、数々の国際交流と姉妹校提携（二度め）と発展していったのもいわれなきことなのだとなつて納得させられました。

そうした諸活動が、生徒・教師・父母の三位一体の形で実践されてきたことを誇りにしたいと思います。紙面の関係で、PTA活動のみにふれますが、いかに活発で協力的であるかは、その源が、創立当初の「母の会」という、他に多くの例を見ない活動の一事をもってしても知られることであり、また、S先生が五稜七

不思議の一つとして、犯人？探しをされていた冬の早朝の登校路の雪かき奉仕といった個人の善意、地域との結び付きとなっているのだと思います。三十年誌では、「あゆみ」や「思い出のアルバム」に一枚でも多くと掲載させていただいたのも、感謝の気持ちを込めてのつもりでした。

それにしても、今回の作業を通して痛感したことは、創立以来の数々の貴重な資料の収集整理や、沿革史を肉づける同窓生、父母、職員のエピソードの発掘保存の必要性です。しかも、できるだけ早急に。

いろいろな企画を持ちながら果たせなかつた無念さを、次回に生かしてくださることを念じております。

最後になりましたが、ご多忙中、貴重な原稿をお寄せいただいたり、記念誌発行を支えてくださった多くの方々には厚く御礼申し上げます。

（編集係一同）

発行日 平成三年十月九日

発行者 函館市立五稜中学校

印刷所 函館市豊川町七番二十六号

(有)久保内印刷所

☎0133-2312678